

胸部体表面形状からみた婦人衣服パターン構成に関する研究 (第3報) 前胸部密着衣服原型の構造と人体形状との関係 三重大教育 ○増田智恵 奈良女大生活環境 今岡春樹

【目的】衣服パターンの構成要素として、立体体表面を平面で構成するための“平面化要素”を明らかにし、体表面から直接計測できないこの平面化要素を体形要素の人体寸法から算出する方法を検討した。第1,2報では前胸部体表面展開図の平面化要素である間隙寸法(展開図寸法(D)と人体寸法(B)との差)を、人体寸法から理論的に算出した。本報では体表面を覆う密着衣服原型(密着衣)の平面化要素である間隙寸法(密着衣寸法(T)と(B)との差)を捉え、展開図の間隙寸法と比較して密着衣の構造の特徴を明らかにした。次に、密着衣の平面化要素の特徴を3次元の人体形状との関係から究明した。

【方法】前報の青年女子50名の石膏体(厚さ0.2~0.3cm)の外面に基準線(コ:頸付根線,肩線,胸幅線,乳頭位胸囲線,下部胸囲線,胴囲線 ㌵:前正中線,乳頭線,前腋線,脇線,腕付根線,C1,C2,FSLM)を設定,10ブロックに分けてシ-フカで立体裁断を行い密着衣を得た。石膏体から転写した密着衣の基準線の長さや角度などの(T)を計測した。基準線の間隙寸法は(T)-(B)>0をプラスの間隙,(T)-(B)<0をマイナスの間隙と呼ぶ。石膏体の立体形状は石膏体の各基準線上の点の座標値を3次元デジタイザで計測した。

【結果】1.密着衣の基準線は展開図の基準線より小さい寸法で構成された。ただし,前肩線のFSLMと前腕付根線FASL1は(T)>(D)で,②,③,⑤,⑥ブロックの形状を示す角度などの(T)と(D)との差があった。2.密着衣では展開図とほぼ同様に全員の胸幅線CWL2,前正中線のFCL1とFCL2,前下部胸囲線のFUBL1とFUBL2,前胴囲線に,体形で前乳頭位胸囲線のFBL2とFBL3,前腕付根線のFASL1とFASL2,FSLMにプラスの間隙があるが,その寸法は展開図より小さい。展開図と異なる密着衣の構造の特徴として,マイナスの間隙が全員の前乳頭位胸囲線FBL1と乳頭線のBPL1に,体形で前肩線FSL1と前肩幅線FWL2-2にある。3.密着衣でマイナスの間隙があった基準線の体表面形状は,凸部に対して反対方向で凹部形状を示し,プラスの間隙があった基準線の体表面は,凸部に対して同じ方向でそれより小さい凸部形状を示した。